

(様式 4)

平成 22 年度 日 立 市 教 育 研 究 会 先 進 校 等 調 査 派 遣 研 修 報 告 書

日 立 市 立 平 沢 中 学 校 教 諭 遠 藤 聡 子

1 派遣期日 平成 22 年 11 月 22 日 (月)

2 研修先 学校名 宮城県登米市立豊里小・中学校  
所在地 宮城県登米市豊里町上町裏 100 番地  
<http://www.tome-svr.jp/~toyosato-syo/>

3 研修内容

(1) 研究主題

「主体的に学習に取り組み、ともに高め合う児童・生徒の育成  
～児童・生徒のかかわり合いを生かした授業づくりを通して～」

(2) 研究目標

主体的に学習に取り組み、ともに高め合う児童・生徒を育成するため、児童・生徒のかかわり合いを生かした効果的な授業の在り方を実践を通して明らかにする。

(3) 豊里小・中一貫校の特色

① 豊里小・中学校のシステム

大きな特色は、小中学生が一つの校舎で一緒に学校生活を送ることである。そのなかで児童・生徒の心理的発達を考慮し、低学年部（1年から3年）、中学年部（4年から7年）、高学年部（8年から9年）の、3・4・2制のくくりを取り入れている。

② 小・中一貫教育課程特例校として変更した授業時数

増加した教科：4年から7年は英語・外国語、8年は数学・外国語、9年は国語・社会・外国語

削減した教科・領域：4年から6年は総合的な学習の時間、7年から9年は選択教科・総合的な学習の時間

③ 4年生からの英語教育

④ 4年生からの一部教科担任制の導入

(4) 目指す児童・生徒像

① 自分の考えや思いをもち、分かりやすく表現できる児童・生徒

② 社会の一員として、学ぶことやはたらくことの意義を理解するとともに、互いのよさや個性の違いを認め、将来の生き方を考えることができる児童・生徒

(5) 「かかわり合い」を深めるために

①視点1 「言語活動の構成の工夫」

ア 自分の考えをもたせる「読む・書く・話す・聞く」活動の工夫

②視点2 「課題設定の工夫」

ア 知的好奇心や興味・関心を高めさせる課題設定の工夫

イ 話合いの観点の提示（問題や課題をどのような観点で話し合うか）

③視点3 「授業形態の工夫」

ア かかわり合いの場や形態の工夫

(6) 各プロジェクトの目標と主な研究内容

①基礎学力向上プロジェクト（教科：各教科）

【目標】基礎学力向上を目指した授業づくりの在り方について、実践を通して明らかにする。

【研究内容】

ア かかわり合いの中でともに学ぶ授業づくりの工夫

イ 基礎学力の定着を図る工夫

②英語力向上プロジェクト（教科：英語）

【目標】発信し受信できる確かな英語力を育成する英語教育の在り方について、実践を通して明らかにする。

【研究内容】

ア かかわり合いを生かした授業づくりの工夫

イ 正確に聞き取り、応答する力を高める工夫

③社会性育成プロジェクト（キャリア教育）（教科・領域：総合・特別活動・道徳）

【目標】社会性を育成する実践の在り方について、体験活動を通して検証する。

【研究内容】

ア 小・中一貫校を生かした縦割り活動の工夫

イ かかわり合いでの自分の考えを発表する場の工夫

(7) 研究のまとめ（成果○と課題●）

① 視点1「言語活動の構成の工夫」

○ 「話すこと・聞くこと」の具体的な指導事項の一覧表を作成したことにより、学年に応じた話し方・聞き方がより明確になった。

● 話す側の考えを十分引き出すためには、話させる側の「聞くこと」が大切であることが見えてきた。

② 視点2「課題設定の工夫」

○ 算数（数学）や理科などでは、学習問題と学習課題を区別して児童・生徒に提示したこととで、学習意欲を持続させながら、学習課題に取り組めるようになった。

● 研究目標の「かかわり合い」を意識しすぎたことで、授業そのもののねらいがずれてしまったこともあった。研究目標はあくまでも手段であり、手立ての一つであることを踏まえ授業づくりをしていく必要がある。

③ 視点3「授業形態の工夫」

○ 多くの授業実践でペア学習を取り入れたことで、より自分の意見に自信がもてるようになってきた。

● 学習下位群の基礎学力が上がるような学習形態の工夫に取り組んでいく必要がある。

(8) 今後に向けて

● 調査内容を吟味し、長期に渡っての変容を探れるような調査システムを確立していく必要がある。

● 校舎一体型小中一貫校として4年目を迎えつつも、改善の余地がまだあり、主体性のある児童・生徒を育成するためにさらに小中一貫校ならではの可能性を探っていきたい。

## 4 感想

小学校と中学校の一貫教育を視察することができた。生徒や先生方は、校舎はもちろんのこと、職員室でさえも小学校と中学校との壁がなく生活している。中学校3年生の国語では、「よりよい小中一貫校にするために、私たちにできる取り組みは何か」という題で、パネル討論をしていた。自分自身だけのことにとらわれがちな中学生が、小学生も含めた後輩のために、グループで様々なアイデアを出し合っており、生徒の学力以上に、豊かな心が育成されているのであろうと思われる。

グループ活動では、中心になり活躍する生徒がいる一方で、友だちに頼りがちな生徒も見られた。生徒同士のかかわり合いの授業を展開するということは、全てを生徒任せにするということではなく、逆に生徒一人一人への支援が、より必要になるのだと感じた。生徒全体の学力向上のために、生徒の特性を生かした指導を大切にしなければならないと考える。

今回の研修視察を通して、自分の考えを伝え、相手の考えを理解する機会を、授業だけでなく、学校生活において意識的に設定していきたいと考えた。そのうえで、お互いのよさを認め合える指導・支援をしていきたい。

## 書式について

A 4 縦長 横書き (1 ~ 2 ページ)

字 数 4 2 文字

行 数 5 1 行

文字ポイント 1 0 . 5

余 白 上 2 0 mm, 下 2 0 mm

左 2 0 mm, 右 2 0 mm